

2021 **3/23**

No.2135

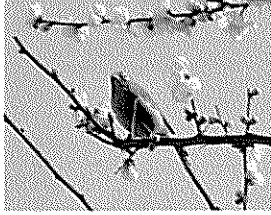
毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



目の回りの白い縁取りが特徴のメジロ。日本全国に広く分布する（写真は2月20日、県立三ッ池公園で撮影）。



## contents

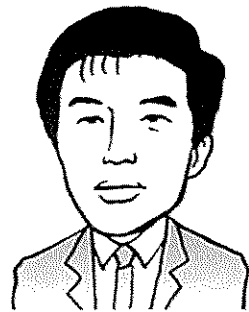
視点点描	3
「津波対策法」の結ぶ縁	
講演録	4
仕事への誇り・使命感 ～福島第一原発事故復旧の現実～ 関電工特別顧問 山口 学	
社 会	8
被災3県の復興状況考える 過去10年間の人口移動から	
デモクラシーの現場から	12
「虚偽」の連発、信頼揺らぐ菅政権	
くらし2021	14
不足する感染管理の専門看護師	
アジアの風	16
坂道を転げ落ちるように	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川県景気データファイル	18
神奈川県景気データファイル	19

### 事務局だより

◇2021年4月定例講演会  
4月20日(火)午後1時30分～3時  
ホテル横浜キャメロットジャパン5階「ジュビリーⅡ」  
講師は日本製鉄顧問 第92代警視総監の高橋清孝氏  
演題は「日本の危機管理の現状と課題～コロナ禍と東京2020」  
※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては開催方法を変更する場合があります。

【お知らせ】神奈川県政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045(226) 2121。

# 視点 点描



## 「津波対策法」の結ぶ縁

を付け村人を消火へと呼び寄せ、高台避難を促し救ったという。その地名でお分かりであろう。法の発案者は二階さんだ。

観測体制の強化などに加え「11月5日を『津波防災の日』とし、日本の沿岸部で訓練を行おう」との二階さんの呼び掛けへ冷ややかな視線もあった。自分の地元対策、選挙対策と見られたのだ。

その10年ほど前、衆院運輸委員会理事として運輸相だった二階さんとともに交通バリアフリー法の全会一致成立に尽力したのが菅さんだ。とかく利権つながりを語られる2人だが、そもそも縁はこの立法作業からだ。二階さんの優れた政治的嗅覚に接した菅さんから「手伝ってみては」と勧められたのが松本さん。菅さんとは

当選同期だ。二階さんを支え10年4月に党内に津波対策議員連盟を発足。法案も書き公明との連携に

も道筋をつけた。だが当時の民主党政権は審議のテーブルにのせない。その年の11月5日が過ぎ、そして翌年の3月11日を迎えてしまう。被害の甚大さによりやく政権も歩調を合わせた。同法が成立した3日後の国会審議で菅直人首相は「もっと早期に通していれば、昨年11月に最初の訓練が行えて、もっと多くの命が救えたはずだ」と異例の謝罪を行っている。

「なぜ菅義偉は総理大臣になれたのか」「なぜ二階俊博は怪物と呼ばれるのか」「なぜ松本純は辞職に追い込まれないのか」。3度目の国会担当でさまざま質問を受けるが、東日本大震災から10年の節目に3問に一度に答えたい。

新年度から始まる国土強靱化防災・減災計画。その主要施策を支える法律の1つが津波対策推進法だ。国会への法案提出は2010

年6月11日、与野党全会一致での成立は11年6月17日である。そう、提出は11年ではない。大震災発生から半年以上も前。当時は野党の自民、公明が連携して上程した。発案のきっかけは和歌山のご故事「稲むらの火」である。安政元（1854）年11月5日の夜、安政南海地震の津波が紀州藩広村（現・和歌山県広川町）を襲う。地元の名士・浜口梧陵は大量の稲束に火

二階さんが「怪物」と評されるのも、唐突感にじむ津波対策立法が実は最重要課題だったという嗅覚の鋭さが背景だ。松本さんは不平を漏らす汗をかき。そして菅さんは発案者とサポーターを見極め縁結びができる。さて、冒頭の3問のお答えになつただろうか。

（神奈川新聞特別編集委員

有吉 敏）